

【源泉交遊】

「舞鶴市図書館基本計画」は「後付けの教科書」と同じ

「朱に交われれば赤くなる」との言葉は昔からよく聞く言葉です。長年にわたり朱に染まり続けられれば、赤色はなかなかぬけることは出来ない色として定着してしまいます。“強権好き”と“利権好き”であった前市長の側近として信頼されて高い評価を受け、お覚え目出度く成功を勝ち取った過去の経験は、当人の性格や思考から抜けきるのは難しいことです。ことに“強権好き・利権好き”の前市長の薫陶を受け、側近として成功を収めた二人の福田氏の経歴はそのままその思考や体質の中に“強権好き・利権好き”のDNAとして確実に受け継がれることになったようです。従って、成功を収めた体験は当人たちにとって強権・利権好きは疑問の余地もないきわめて自然なこと、普通のものとなり、他の価値観に対して理解する余裕を持ってないことかも知れませんが、其のことが異なる価値観の受け入れを阻む要因ともなっているようです。「中央図書館」構想の出発点は、前市長の発議で動き出しました。前市長は、とある講演会でいたく感銘を受け、新図書館事業をこれこそ我がレガシーとして取り組むべき事業であると思い、早速、取り巻きの幹部に中央図書館の建設計画の作成を指示したのが始まりだと聞いています。この鶴の一声に急遽幹部たちは急いで関係者を集めて、急ぎしたためたのが表記の「舞鶴市図書館基本計画」であるとも聞いています。今当局の福田生涯学習部長は現在進行中の「中央図書館」建設構想の拠り所は、この上記の「舞鶴市図書館基本計画」書を教科書としていると述べているが、この教科書が間違いの基であることに気付いていないようです。それは今までの成功体験の価値観の呪縛の内にあるからだと言指できます。また前市長が受けて感銘した講演会の先生が、今も建設計画に関わっているのか、いないのかは知る由もないが、もしそのたぐいの先生が今も「課題解決型図書館」構想に執着し関係しているようであれば、その大学の先生は「出来の悪い教授」と言えるでしょう。異論に出くわすと周りに怒り散らすことが多いはずで、それは単線の思考で、他に選択技を持っていないからであると推定することが出来ます。自己の主張に対する異論に拒否反応を示すだけで、他にも選択技があると言う多様で柔軟な思考を持ってないからに違いありません。「舞鶴市図書館基本計画」は恣意的につくられたものです。それは現行の「中央図書館」構想と合わせ鏡の状態にあり「中央図書館」構想の誤りは即「基本計画」の誤りと重なって映るはずで、にも拘わらず、福田生涯学習部長は、「中央図書館」構想のつまづきの対策として「舞鶴市図書館基本計画」書を忠実になぞることを謡っていますが、「舞鶴市図書館基本計画」も「中央図書館」構想も、どちらもその最も重大な根本的な誤りは、本来、「人間生活に合う制度設計」であるべきなのに「制度に人間を合わせ、従わせよう」とする設計になっている点にあります。長く強権好き利権好きの価値観の中で過ごしてきた人々にとっては、「井の中の蛙、外界を知らず」との諺もあるように、同じ環境に長くいると、外界の価値観を受け入れる柔軟性を失うことになるという事のように思われます。